

第2回(仮称)市民活動推進条例検討会 記録

【日時・場所】

平成 28 年 6 月 5 日(土)9:00～11:00 823 会議室

【記録】

①前回のまとめ

委員から、「委員全体のレベル(知識等)が高いため、それに合わせて進め方を変えた方がより議論が深まるのではないか」との提案があり、当初の予定を見直すこととした。進行も、固定の委員が行うのではなく、全員で順番にやっていくこととする。

②市民活動だからできること

2チームに分かれてワーク

■ チーム1

- このままでもそこそこメリットは出ているが、他にもこういうメリットがあるというを出して下さい。旧図書館の事例。合理的にしか考えられない市に、市民の生の声をはじめて伝わった。こういう活動は市民がすべき。通行止めになっている素堀のトンネルの件、今まで何もなかった話がぽんと出てきて大議論になった。地元の市民の中でも意見が分かれていた。答えは一つではない。
- 21億円かけて保全している史蹟は、公園ではないので木を1本も受けてはいけけない。9時から5時までしか開けない。困っている。市の問題だけではなく文化庁から出ている。自由に利用したいののだが合わない。子育て、当事者問題として関れるきっかけができれば。
- 似たところが多い。子どもを自由に遊ばせたい。青空保育に1歳から参加している。市民活動はやりたいことが明日からでもできるのがメリット。
- 自分が関わっている団体は、25年かかってやっと仲良くなった。メリットは、市民対応が直接なので、自由にきめ細かく出来る。行政は年度ごとのサイクルで事業を行っているが、我々は5年だったらできるかなと長期的な見通しの中で取り組める。
- 世代とのつながり、地域の中で繋がれた。色々な立場の人、福祉、子育て、高齢者と様々な話ができ。悪い面もある。高齢者が多いので子育て世代の意見、世代が少ないとボリュームが少なくなる。話しは聞ける。その中から若い人の意見が高齢者に響いて、SNS活用とか、理解・波及されることがある。スマホで個人でつながる。
- 町内会の会長をやりながら見守りをしている。学校まで迎えに行き、下校の見守りをやっていた。子どもたちが朝のあいさつをするようになった。
- 自分の団体ではITの支援をしている。昔、業者が大手に買収されたため、あるアドレス名が使えなくなった。総務省に掛け合った。アドレスが使えなくなる1年前に公表されたが、これは相当の猶予期間なので、公表したら拒否できないと言われた。しかしアドレスは世界中にひとつしかない。個人認証に使えるので銀行への届け、通販、色々なところに登録している。あとあと問題になる。議会に陳情して採択された。不条理なことがまかり通っている。Windows10、朝起きてみたら切り替わっていた。リユースネットを協働事業募集第1回の時に、市の提案でやった。協働は win-win の関係。カマコン、IT関係の活動が進んでいる。日本人は長期にものを考える習慣がないようだ。行政も単年度予算でしか動けない、先の予想を言えない。世界遺産を申請しようという時にそれではだめ。長期的なビジョンがない。鎌倉市の役職の方はほとんど

市外から来ているのでビジョンがない。鎌倉のことが頭に入っていない。

■ チーム2

- ・「こういうことが問題だと思ったのでこの活動をしている」ということを出してほしい。同じ課題に対して活動している他の団体があることなど。
- ・自分が関わっている団体は何か特定の課題があるわけではない。全部自分ゴト化する。月1回定例会をしている。プロジェクト5組ぐらいがプレゼン、プレストをし、プロジェクトに協力する人を集めている。自分ゴトでアイデアを出す。自分ゴト化すると仲良くなり、人が集まり、アイデアが集まる。ポジティブなアイデアを出す場なのでたくさんする。アイデアが出やすい脳になる。3年くらい活動している。会社経営にも役立っている。組織作りなど。課題を発信する場になる。
- ・まちづくりサポートを仕事にしている。地域が住環境を保全したい。敷地について話し合いをして、具体的に計画に定める。手法はいくつかあり、自主まちづくり、住民協定、地区計画など何かしらの方策をとる。メリットは、地域の課題、意見交換をするので、ある方がここが問題だと言っても、皆さんで意見を出し合うことで、交通、安全、子どもが通る時、色んな考えが出てきて、色々な意見が計画に反映される。最初は敷地分割を防ぐ目的だったものが、1つの目的から、色んな意見が見込まれて、幅が出る。地域の人たちが運用するものは地域の意向が反映できる。開発計画があった時、ここは危ないから警備員を付けて下さいと言えたり、効果もあらわれる。
- ・課題を発信する場になっている。まちを自分ゴト化。とても似ている。
- ・空き家・空き地問題に取り組んでいる。1年に一回、6月に重要調査期間とし、3,000戸歩いて確認している。6人で1か月かけて完全に把握して、空き家の持ち主にアンケートをして活用、マップ化している。市でも空き家特措法に従って対策しておりそれにも協力している。防災などいろいろ利用できる。メリットはたくさんある。
- ・マップは全員見られるのか、役員の方のみ見られるのか。
- ・個人情報の問題があるから、主要の役員と調査員は見られる。将来空き家バンクを作りたい。自分達で商売するわけではないが不動産屋に提供したり、必要としている方を広報で募って提供しようかな。
- ・生データを持っているわけでしょう。行政にはできない。
- ・腰越でも空き家バンクの作成の話があったけど無理だった。個人情報の問題があった。
- ・市がやると全部やらないといけない。一部だけやるわけにいかない。
- ・自分たちだからこそできる良いこと。行政や企業にはできないことはあるか。
- ・細かなことをやろうとしても、市にできないことが多い。我々がここまでやるから、市には次はこれをやって欲しいと提案してもらいたい。
- ・こども食堂をやりたい方が、市が絡むと、月何時から何時までやってくださいとか、月何回やって下さいという規制が入ってしまう。直接関りたい人はいるのに。
- ・こういう規制を外して欲しい。
- ・空き家を利用したいという人が多い。
- ・空き家の持ち主に年に1回リマインドできることが良い。
- ・もっと活かす方法がありそう。
- ・こんな情報を持っている方がいることを人は知らない。

- ・何年前からやっているのか。
- ・4年間から。6月に集中的にやっている。
- ・先進的なので、この成功事例が他で生かされたら良い。
- ・商店街が高齢化して、次の代に引き継げない。問題提起する。
- ・空き家まではいかないけど、ノウハウが生きる可能性がある。
- ・ぜひやってほしい。担当セクションに寄ったときに、議会にかけあっても実績がないから予算がとれないと残念そうに言っていた。市も一緒にやりたいのではないか。
- ・市民は前例がなくても動ける。
- ・自分はNPOを支援するNPOをやっている。店主の高齢化問題がある。自分が住んでいるところは商店が3店舗しかない。スーパーはあるが、一つのお店に行き交している。被災地支援で岩手大槌町に行った時に、ある商店が情報の交流拠点になっていた。「あそこの仮設住宅に●●さんがいるみたいだよ」と離れ離れになった地域の方の安否をそこで仕入れている様子をうかがった。店主さんは、キーパーソン。なので、個人商店の価値が高いことがわかったが、うちの方は高台なので既に買物難民になりかけている方々もいる。その他、子どもをキーワードした活動に携わっている。子どもたちに身近な自然環境に触れる機会を大切にしており、谷戸の会、青空自主保育のネットワークがある。30年以上続いているため、縦と横のつながりがある。また、国際協力の活動として、ベトナム・ミャンマーの子どもたちの教育支援の活動をしているが、今後は、日本にいる外国人のサポートを行えたらと思う。先週ミャンマーから視察団が来訪し、鎌倉の地域の図書館の運営方法をスタディツアーで紹介した。
- ・こども会館で市と協働で活動。施設廃止に対して地域住民から 2,000 通の陳情が出された。プレイパーク事業を中心に実施。イベントは継続性がない、その時だけで終わってしまう。拠点がなくから続かない。例えば行政がやっても、やってもらって当たり前なので、何かちょっとおかしいとすぐにクレームにつながる。地域の方と一緒に、子育て当事者が居場所づくりの事業をやることにした。ニーズがある人がやる。運営も自分たちがやる。地域の住民でやっていると、問題を言う側ではなくて、自分で考える側になる。自分ごとになった。こども会館の裏山を使えるように市にかけあい、3年かかって今年の4月にやっと実現した。だがこの9月で運営が終わりとなり、悲しく思っている。
- ・自分ゴトがキーワード。それが市民活動のメリット。関わっている人が自分ゴトになる。
- ・鎌倉市から補助金を受けて、有償訪問ヘルプサービス、給食サービス。利用者から実費を貰ってホームサービスをしている。介護保険の見直しがあり、株式会社が参加してきてモチベーションが失われてきた。地元根付いた20年、30年やってきた人の活躍の場が失われている。会社が参入しているから、あなたたちに特権を与える必要はないということで、調理室の電気量や使用料を減免していたが、料金を払わなければならないようになった。やむをえないのだが、利用者にとっては会社より今までの市民活動のサービスを利用したい人もいる。老人福祉センター、指定管理。鎌倉市の公共施設は大体対象者を限定している。老人福祉センターは 60 歳以上の鎌倉市民。藤沢や逗子の他市民は二の次。子供が利用できない。世代間交流、こどもとの交流事業をどこまでできるのか。市からの支援を受けると使用上の制約をうける。老人センターは子供が来る場所ではないという苦情もある。囲碁や将棋をやったりする場所だと。既存の施設を複合施設として使うには制約がある。利用者協議会を開いて検討するなどしないと。年寄りだけでは地域交流できない。
- ・結構重たい課題。仕組みができて環境が整備されることで市民のモチベーションが下がるとか。議論した

いところ。空き家も仕組みになったとたん、活動しにくくなる可能性も。世代交流のやりにくさ、施設の目的が明確になっていること、縦割りの弊害と言っているのか。市民初だと「誰が使ってもいい」となると思うが、仕組みになってしまうと難しい。

- 市民活動の活性化、すぐに行政が対応できないことを。自由にできる、前例なくてもできる。それが良いとなれば、市が真似して、他市が真似して、広がっていく。
- 市民が良いことをやっていて、行政が広めようとする劣化コピーという危惧もある。
- ガーディアンズは、我が国初のイベント型防犯団体。観光協会と鎌倉市の発案でできた会。大きなイベントのとき、警察が出てこない。警備会社は高い。すきま産業。必要とされているけど、誰もやらなかった団体。防犯力は警察は弱い。事件が起こらないと動けない。警備会社は高額だしありきたりな警備しかできない。防犯も防災も地域をよく知っている人が地域を守るのが一番強く、真の地域力ができる。花火大会の時地元の人間が道案内をするのが一番心がこもる。行政は自由度が低い。行政はお金をかけて動かなければいけない場合は、議会の承認がないと条例もつくれない。市民と行政と議会に一体感がないのではないのか。不要な対立は、良いことをやっても、議会が承認せずに上手くいかないというのが鎌倉は多い。政治家も勉強していない。市民活動を縛っている。行政に自由度をきかせてあげても良いのでは。無駄な業務、細かい作業ができない。行政ばかり攻めるのは可哀想。市民の中に、独立を目指しているのに、行政に頼る悪質な市民がいる。行政、市民活動双方がまず自立しなければいけない。何もわかっていない議会が変に反対し、足を引っ張るのは問題外。条例ができることで自覚を促すことが必要。市民に求めることも必要。
- 双方に自覚を促す。それは大事。
- せっかくこういうのをやって、議会にあげたら、くだらない質問で潰されかねない。議員も来て入れれば良いだけ。双方が勉強する必要がある。
- 自分ゴト、意見がしやすい場、知っていただく努力、それぞれが良さを活かして、市民・議会・行政の一体感がないのは問題。鎌倉市をどうしていくかを考えていくのが行政の役割。考え方を見せるシステム。議会が指定管理にしなさいと言って追い出された。それぞれが良いと思ってやっているのだろうが、鎌倉市をどうしていくかを考えていくべき。
- 本来は将来ビジョンを考えるのが行政の役割であるが、最近クレーム対応で追われてしまう。気の毒になる。

■ チーム1 発表

課題に対してメリットがこれだけたくさんある。

歴史的建造物が壊されそうになったとき、合理的にしか考えられない行政に、市民の生の声を伝えることができた。市の計画をオープンにできた。市が秘密にしていたことを市民が掘り出し、オープンに話し合うことができた。一人一人の生の声を外に出しやすくなる。答えは一つではなく、イエスノーの意見が2つあったことがわかった。その中で他人を認め合うこともできる。

子育てについて。

同じ考えの人が集まるのでやりたいことがすぐできる。

自分が関わることのないことを知ることができた。

谷戸の景観について。25年かければ市民と行政は仲良くなれる。市民対応は行政よりも自由で丁寧にて

きる。会員が継続する。持続力、長期的課題の解決。市だと単年で人や考え方も変わる。
地域の中での多世代。保育園での見守り。登校時の見守りを地域で応援。保育園と町内会が結びついて
くることができた。保護者と顔をあわせることができた。子育てというキーワードで地域がつながることができ
た

強弱はあるけど理解共有はできる。

若い世代が SNS を使っているので、使っていない世代の方に使ってみたらというPRもできた。

インターネットのトラブル。メールアドレスが急に使えなくなった。手続き上の問題が難しかった。訴えること
によって聞く耳をもってもらった。

ITの普及。パソコン講座高齢者向けにもやっている。講座内容を自由に決められる。

リユースネットは、団体が2つ合わさっての協働ができた。3つの市民団体でつながりをもってお互いのメリ
ットをもって活動できた。

【課題 事例】

- ・永福寺あと、地元の人が使いにくい
- ・鎌倉にある歴史ある建物が壊されそうになった件
- ・市がもっている歴史的建築物を守る会の誕生の件
- ・永福寺あとムダに使いたくない
- ・素掘りのトンネルが危ない件
- ・〇の会の結成
- ・子育ての不安 環境の不備
- ・子育て中の母に外とかかわるイベントを提供している
- ・子どもたちが自然の中で生き生き遊べる場所作り
- ・PTA 活動で様々な人と力を合わせる
- ・子どもを自由に遊ばせたい
- ・親子で仲間作りがしたい
- ・青空自主保育
- ・市内の子育てにかかわるグループの意見をまとめる
- ・谷戸の景観、生態系、保全
- ・山崎谷戸の会 行政と協働でつくった
- ・忙しいので大人はつながりたくない
- ・地域の中で多世代でつながりたい
- ・子ども会 町内会
- ・グループメール(サークルスクエア)の利用
- ・保育園、朝の見守り 子ども登校時、子供登園時
- ・町内会 回覧実施 ポスター掲示
- ・行事に参加 アフリカ音楽 しし舞 地引あみ
- ・市民の高齢化 子育て世代の縮少
- ・社協の対応
- ・インターネットのトラブル
- ・1. メールアドレスの事業者による強制変更 2. 基本ソフト(OS)のバージョンアップ
- ・IT の普及
- ・パソコン講座
- ・IT プログラムの作成と日常業務
- ・“リユースネット”複数のNPOで対応

【メリット】

- ・合理的にしか考えられない行政に対して市民の生の声を伝えられる
- ・真の古都の文化を守ることができない
- ・市の計画をもっとオープンにできる？
- ・地元の声、周辺の声のちがいがわかる
- ・答えが1つでないことがはっきりする

- ・1人ひとりの生の声を表に出しやすくなる
- ・他人を認めあえる
- ・鎌倉での子育て楽しく
- ・地域のつながりが強まる
- ・当事者の問題だけでなく全体にひろがる
- ・保育園を作るよりも自由保育こそ市民活動
- ・同じ目的の人が集まりやすい→やりたいことがすぐにできる
- ・自分が関わらない市の問題を知ることができる
- ・大人も育つ 世育ち
- ・25年かければ市民と行政は仲良くなれる なげーな！
- ・市民対応が行政より自由、丁寧に見える
- ・会員が継続するので持続力が育つ
- ・単年度思考(行政)でなく、長期課題解決できる
- ・地域歴史を知ることができた
- ・参加の方法、仕方を考えるようになった
- ・自分なりの解決策を見つけられる機会ができる
- ・自分の問題として考えられるようになる
- ・保護者と顔見知り朝のあいさつ
- ・地引あみ 団体参加
- ・「子育て」というキーワードで地域がつながる
- ・保育園と町内会！意外な結びつきが！
- ・世代間交流が自然に見える
- ・高齢者の意見 若い人の意見 強弱あることを理解・共有できる
- ・協議会で福祉、子育て当事者との話ができた
- ・SNSの利用
- ・若い人も簡単に理解できそうですね
- ・会員の知識、情報収集力で対応
- ・知らない市民の課題がはっきりしてくる。アピール次第だが。
- ・受講対策を自由に決められる
- ・人々のスキルで対応出来た
- ・行政にたよれない IT 面での公共問題も市民で解決に近づける

■ チーム2 発表

キーワードは“自分事”。

市民ならではの地道な活動をされている。

ひとつのきっかけに対して色々な方を巻き込んで、意見をもらっている。地域の当事者からも意見をもらっており、意見交換の場として市民活動のお陰で色々な広がりがでている。

空き家問題をされている例、地域 2000 件の家を1か月かけて回った。

市民にしかできない。貴重な労力をかけて頂いている。これをどう鎌倉市の財産にしていくか、どのように活かしていくのか。

制度ができて、公平性を期す規制ができたことで今までうまくいっていたのがダメになったこともある。今までよかったことが消されていく。今のままでうまくいくところと、制度化してうまくいくところの見極めが大切。鎌倉市の今の状況として、議会と行政と市民が対立するような構造になっている。

行政は議会に言われたことは守っていかなければいけない。市民のニーズにも応えたい。

お金や法規制が絡むと、議会で言われたことをやっていかざるをえない。それぞれ良いと思うことをして発表するが、それがうまくいっていないのが現状。

行政に自由度を持たせて、自分たちの意思を系統立てて出してもらえるような状況を作っていかなければ。それは市民の役割かも。



【課題 事例】

- ・耕作放棄地がたくさんある
- ・(農家でできないから)市民が耕す(久田緑地くらぶ)
- ・課題があった時に他人事になりがち 無関心
- ・住環境の保全

- ・自主まちづくり 住民協定 地区計画 etc
- ・商店街のすいたい 店主の高齢化 後継ぎ問題
- ・空き家・空き地問題
- ・高台に住むご年配の方は買い物が大変(買い物難民)
- ・店主の高齢化と後継者は？
- ・子どもたちに近所にある(身近な)自然を知る
- ・里山環境の保全(山崎谷戸の会) 台峯
- ・日本に住む外国人との交流
- ・地域の方と一緒に子育て当事者が居場所事業を
- ・他者参入による①活動機会の減少②行政支援の後退
- ・老人福祉センターetc 対象者限定
- ・行政が事業をすると「やってもらってあたりまえ」
- ・行政に対しては問題点は「クレーム」になる
- ・有償ホームヘルパーサービス、給食サービス(介護保険制度の浸透)
- ・地域交流の推進できる？ 利用者からの協力
- ・子どもの居場所がない
- ・異世代交流のきっかけと継続ができない
- ・ガーディアンズ 我国初の…イベント型防犯団体
- ・防犯。防災 警察…事件がないと動かない 警備会社…高額
- ・地域を一番知っている人間が地域を守る→強い
- ・行政＝自由度が低い(全て行政はできない)
- ・行政の予算＝議会の承認(うるさい政治家)
- ・市民－議会－行政－市民 一体感がない
- ・行政＝議会が対立している
- ・行政がムダな業務で忙しい 細かい作業ができない

【メリット】

- ・自分事として捉える
- ・仲良くなる
- ・人が集まる 協力者
- ・アイデアが集まる
- ・月一回集まり、各自で持ち寄った課題についてプレゼン、ブレスト
- ・会社経営、組織づくりに役立つ
- ・地域が活性化する
- ・地域住民の意見を反映 運用できれば効果大
- ・空家利用
- ・データをもとに市に提案
- ・市民側の視点が提案できる
- ・規則なしで動ける

- ・前例がないでも動ける
- ・定期的な調査 町内全体 2000 戸を歩いて確認に マップ作り
- ・→将来 空き家バンク
- ・全体的な把握が必要
- ・ブレスト脳になる
- ・ネットワークの拡充
- ・地域の住民がやることで「自分のこと」に
- ・鎌倉で子育てしているメリットを気づいていない人が多い
- ・当事者(利用者)との信頼関係づくり
- ・地域に根付いた人・団体
- ・自分の街を自分の力で守る 防犯・防災の基本
- ・真の防犯(防災)が確立できる
- ・自立
- ・行政、議会、市民は勉強すべし
- ・自覚を促す必要がある

■ 発表まとめ

1週間分くらいの意見が出ました。一人ではできないことを皆で共有していく、自分のこととして考える。そして地域自身が繋がって広がっていく。市がやっていることには限界があるのでそれを助けていこう。皆でやっていくことで、それが実現するステップ。今あるネットワークや仕組みを生かしていない。

公平性など良い面はあるが、弊害になることもある。制度を見直し、見極めが必要。いいことも悪いこともある。市民と行政の対立構図を協調や協働に変える。子どもが育つだけでなく大人も育っていく。同時にまちや世の中が育つ。キーワードをとっていくと、市民協働の共通点が見えてくる。これらを組み入れながら条例を作っていくてもらう。

③市民活動の課題解決

2チームに分かれてワーク

■ チーム1

- ・ちょっと刺激し合いながら出していく方が良いので、途中で出してみてください。
- ・行政と協働で行っている市民活動団体と、始めの一步の活動をされる方とは違うと思うので、今の NPO センターは、これから始める方の相談に乗りながら、やりたいことが出来る場所や方法を教えていくというのが役目ではないかと思う。活動の仕分けをしないと次にいけないと思う。
- ・これに刺激を受けて、ならばこういう意見がありますみたいな自分の考えを出してみてください。
- ・NPO センターまで行かなくては意見を持ってるお母さん達の意見を出せる場がない。アンケートなどでこういう鎌倉にしたいという意見を書いてもらうとたくさん出てくるので、そういう意見を気軽に出せる場があると良いと思う。SNSを使つての「市長への手紙」というのがなくなって、「市へのお手紙」に変わっていましたが、やはり「市長への手紙」が良かった。
- ・人と出会う場所とは？

- お母さんたちの支援をしていると、こもりがちのお母さんが居て、そういう方を出して行ってこういう場所がありますと紹介が出来て、人を繋げることが出来ればと。
- 支所をうまくコミュニティーの場所にする。
- 大人も子供も居場所、遊び場が欲しい。
- 子供には学童保育があるが、お母さんたちにはそういった場があるか。町内会館は地域の場所なのでそういう場所が活用できると良い。
- 町内会館、公会堂は指定した団体ならいつでも使える。町内会の指定団体にすれば多少よその人がいても使えるが、政治団体は断る。
- こちらはずっと継続しているが、担当職員が毎年変わるので、4月に行くと同じ事を毎回資料を提出して説明しなければならない。
- 長期的な視点でみていくものと、そうでないものと考えていく必要がある。
- 今まで話し合っていたことや情報も職員の間で引継ぎをしておいてほしい。議事録を取っていてもそれが出来ていない。
- 市民が必要なものが何なのか分からずにやっている。自分たちの活動をチラシで配る時も学習センターにおいてもらうが、公園課は体育関係のものしかおけないと言われる。
- 私たちは長年やっていていい関係が出来ている。それは活動イベントに来てくれる、一緒にやってくれる姿勢があるとないとで違うと思う。
- 欲しいものは温度差の解消。
- どういう募集公募があるのか知りたい。
- ホームページにただ載せているだけで随時入会しか書いていない。ホームページをご覧になれる人しか知らない。
- 行政側も団体も同じ活動をしているし、同じような理念を掲げているのに些細なことでけんかしている。前に進まない。実際に活動をしている人が表に出ないと活動をしていることが人には知られていないし、広がっていかない。知られていないと活動をしている人達の声に耳を貸さない。根拠をすぐに求められる。学術的なことを求められるが、ずっとそこで生活をしているからこそ循環していることが分かることもあるのに科学的な根拠を示せとか、提出を求められて、説明できないと取り上げてもらえない。
- 個人情報を守ることも大事だけれど、出来る範囲内で個人情報の開示も必要かも。人材バンクも必要。いわゆる市民協働を支えたり、市民活動をベテランとなっている人の人材バンクが必要。そういう人が必要となっているので、人材を集めるということ。
- 資金が回収できる事業を立ち上げていかなければならない。ボランティアなどのタダでやるだけではたちゆかない。でも事業を立上げることはなかなか出来ない。

■ チーム2

- 皆さん仕事があるので、スケジュールの調整が難しい。高齢者が多いので IT スキルが不足していることが課題。
- Facebook に送っても返事がないし。
- 課題は金と信用と人材。それも最小限で良いと思う。あとから実績を重ねてついていけばいい。
- お客様気分の人が多い、何かやってくれるとか、待ってる人が多い。意外とプレーヤーはいっぱい居るの

に全体像が明らかになっていない。どこを目指すのかよく分からない。ということが課題としてあるのかと思う。

- ・場所に困っている。こういった提供情報サイトがないのかなど。
- ・これは支援策の方。支援策でもいいので、皆さん出してください。
- ・先ほど議会の話が出ましたが、市の職員が議会对策に時間を取られ過ぎている。
- ・議員の中には市の職員をあげつらうだけで活動している人が何人かいるので。市民と全くかけ離れた活動をしている人がたくさんいる。
- ・逆に議員さんの生の声が欲しい。
- ・議員がここにきて我々の意見を聞くようなことがあると良い。
- ・私たちがこれだけやっているのだから、議員もこれくらいのことはやって考えるかどうか。
- ・議員さんの多くの方は自分達こそが市民の代表だから、こういうことをやること自体がおかしいと思っていると思う。
- ・いわゆる上から目線。
- ・上から目線が多いです。
- ・自分達(議員)が市民の代表だから、自分達が言っていることが市民の声だと。
- ・団体のメンバーに対して議員が一人ずつに、「ご苦労さん」というけれど、自分たち(議員)がやれば良いのではないかと。
- ・そこをどうするか。そこを考えましょう。
- ・継続性。もしかしたら短期で解決してしまう場合もあるでしょうが。人材とかお金の問題もあると思う。
- ・イベントなど毎年してしまうと同じメンバーも初回で飽きてしまう。
- ・継続する必要がない場合もある。その辺が柔軟にできると良い。
- ・信用について。
- ・信用のあるNPOとそうでないNPOがある。1年で潰してしまうNPOも山ほどある。そこと、きちんとやっている所と、行政もどうやって見極めるか。実績を調べるとかそういう制度とかあっても良いのかと。
- ・今回の条例の中で理念の所が非常に大事なのかもかもしれない。キーワードは色々出ましたが、皆が自立するとか。柔軟な制度、自由度の高い制度、条例とか要綱とかで定めてしまうと、がちがちでどうしても決めがちだけれど。産業振興の方で今「元気アップ事業」があって提案型で採用している事業がある。市民活動とかも提案して、その事業だからこそ補助金を出すとかという制度があっても良いかと思う。
- ・市が提案するのをNPOに開放するためにもう少しハードルを低くしてやる というのも大事。今やってるものをそのままやってくださいというのもどうかと。
- ・お金でいうとクラウドファンディングがあって、何かやりたい人がいくら必要ですと言うと、ネットを通してお金を集められるという仕組みが鎌倉にもある。
- ・市は新規事業に100万円の支援をしている。NPOの支援に変えた方がいいのではないかと思う。それだけの予算があれば。
- ・助成金みたいなものがあるのか。
- ・そういうのがある。→創業支援として、商売として、生業としてされる方に100万円だしているのがある。
- ・そういうのが、NPOとかにあっても良いかと思う。
- ・NPOへの支援金ということ。

- ・銀行では、有り得ないぐらい良い制度。だけど NPO でやってる方に出した方が良いと思う。
- ・助成金の周知、制度があるということを知っている人しか知らない。申請しないともらえないので、その辺りをもう少し何とかならないか。これは市だけじゃなく、国もそうである。後から知って、貰えたのにとと思うことが結構ある。
- ・そういう意味では、育てる事業、意図的に市民活動を積極的にやらせようとするための事業があっても良いのかと思う。例えば、この間の指定管理の時に落ちてしまった資金面とか、そういう面で普通の法人と戦ってしまうとダメだけど、市の中で活動をする人たち、そういう場を積極的に作っていく、活動ができる場を作っていく事業とか、あるいは指定管理もそういう条件付けの項目を入れることも良いかと思う。
- ・NPO の支援はいろいろと出ているが、誰が NPO を助けているか。
- ・NPO センターが形としてはその役目かと思う。
- ・協働が行政の下請け化している。依存体質。ガバナンスの問題で声の大きい人の意見が通ってしまっている。合意形成のやり方も一緒に考えた方が良くはないかと思う。手段が目的化している。協働することが目的になっていて、本当は活動の先に、例えば里山活動など環境を大切にしたいということがあるはずなのに。
- ・活動していることに満足してしまっている。
- ・PR のところで相手に必要な情報を提供できているか。自分達が知りたい情報ばかりを発信しているので、受け取り側としては別に必要ないこともある。信用問題にかかるところではお金の管理、リスク管理ができているか。
- ・ガバナンス展開、中の状態がありますね。
- ・業務管理。NPO というものがどれだけ正確に説明できているかどうか。
- ・信用問題のところというと NPO というだけでちょっと怪しいと思われる。
- ・何か問題を起こした時、例えば、株式会社ならば企業名がでるのに、NPO 法人の場合は「NPO」としか出ない。あと NPO は儲けてはいけないという概念がいまだにある。フルコストで予算を計上していくということも必要ではないかと思う。例えば、人件費などもボランティアでやっている人が多く、決算上、人件費は0円となる。でも実際はボランティアでも時間と労力などを提供しているわけなので NPO 法人会計基準の中で勘定科目として、ボランティアを、例えば、最低賃金の時給で換算したらいくらになるのか、などがあるので、そういうことも計上する必要があると思います。それと、横のつながりも大切。例えば、障害者の作業所を運営している団体は、他にも同じような取組みを行っている場合があるけれど、考え方の相違などで一緒にできなかったりする。共に取り組むことでの拮据が持てる場合があると思うのだが。あと鎌倉にある NPO センターの役割はどうなのだろう。
- ・専門的な財務とか、法律とかの支援が欲しいという意見が前回あったので、NPO センターにそういう機能を付加していくともっと使いやすく有意義かもしれない。
- ・地域の理解を得る。いろんな企業が参入してくることは良いのだけれど、地域に密着している団体がきちんと築き上げてきたものをそこから横取りしていいのかなと疑問に思う。
- ・それは大きな課題。
- ・先ほどの話でもう一步踏み込んで、縦割り行政にメスを入れる。産業振興でやっていること。企業だけではなくて、NPO も対象に入れてしまうのはどうだろうかと思う。
- ・信用保証制度は、NPO も対象となった。

- ・縦割りで同じ制度を作るのではなく、単純にNPOも良い提案があれば同じ制度を使えたら良いのではないかと思う。100万円の予算を市で別々に取っていくとなかなか大変なので、そういう所で少し財政的に厳しいので効率化して欲しい。
- ・専門知識が不足していて、会計、リスクマネジメント等の知識がなく、企業に負けました。あとは知識を得る場の提供をぜひして頂きたい。低価格や主婦でも受けられる機会など色々注文を付けたいところ。市民団体が、全部を網羅している団体としてやっていくことは難しい。団体同士が特性を生かし合って補完し合うプロジェクトを立ち上げて、皆でやってみてはと思う。あとは市民活動を評価すること。評価付け。活動をする前は、熱心にするし、考えたり、整えたりするけれど、活動は基本的にその通りになっているかが課題。お金の使い所について、これだけ議会で色々揉めるのであれば、やったかどうかまで見ることも必要。
- ・そこを見てみると、きちんとやっているかどうか分かる。
- ・企業支援はあるのに、NPOの立上げの支援がないと思う。
- ・まとめに入る。まず「お金」に関しては「お金がない」というのは絶対課題としてある。これに対して、支援策は「クラウドファンディング」や「助成金」「情報の周知」「情報を流す」「縦割りを柔軟にする」。お金と信用に関してはセットになっていることが結構ある。「信用」に関しては、「市との協働や連携」。企業からNPO団体に対する問い合わせがすごく多い。企業にとっては信用がないところとは付き合いたくないというのがある。この辺りは大事だと思う。そうすると「評価基準」が大事だし、何をもちて格付けするのか、誰がするのか、が問題。例えば行政の言うことを聞く所が良いのかという、そうではないので、基準が大事。難しい。
- ・これは今回の条例で考えるべきこと。NPOセンターで10万円、5万円の補助がでる。でも設立1年後には結構なくなっている団体がある。お金だけもらって解散している。お金をもらうことが目的になってしまっている。
- ・審査員は勝手に選ぶけれど、責任を取らない。格付けも大事だけれど、将来的には、小さい団体だけれど、すごく芽があるなど、先ほどの育てるためにもどこかが信用保証するような支援の声などもあったら良いと思う。「人材」について。「人材育成」が必要。「人材」が足りない。「人材」に対する支援では、簡単に受けられる講座があるといい。
- ・例えば団塊の世代で会社経営者とか、個人向けの人材としては良いのでは。
- ・人材はそれをやろうとする人が何人いるか。ボランティアになろうとする人もいるが、高齢化で人手が足りなくなる中、庶民の中でやっても良いなと思う人と、団体をうまく繋ぐ人と色々必要だと思う。「萌」を見て電話をかけてくる人もいるが、まだまだ少ない。
- ・どこに行けば誰に会えるのか分からないと難しい。
- ・人を確保するのは難しい。
- ・NPO法人の人材バンクがあると良いのでは。
- ・ボランティアバンクが、社協にあるか。
- ・ボランティアの協議会はあるが、NPOではない。
- ・藤沢の推進センターでは16人のNPO専門家がいて、会計、IT、デザインなどの専門家を揃えている。
- ・横浜市も揃えているとか。
- ・横浜市の市民活動支援センターには、アドバイザーとして税理士、社労士がいて、それぞれ、NPO法人税理士による公益活動サポートセンターなどと協定を結んで取り組んでいる。
- ・ボランティアが足りないというのでは、ボランティアをするとポイントが付くということを実施している所がある。

楽しく参加できる仕組みも必要。同じ人がボランティアをしているので、今までやったことのない人が、参加できるきっかけになる仕組みがあれば良いと思う。

- ・あとガバナンスについて。
- ・リーダーシップをとれる人がいて、きちんとしたルールをNPOの中で設けていく必要がある。
- ・これは組織運営。全体的な管理が必要。
- ・コンプライアンスが必要。
- ・そういう経験を持っている人は鎌倉には多くいるが、そういう方々がでてこないのか不思議。
- ・人材はあるけど、出てこない。
- ・人を探すには、サイトで探すなり、埋もれている人材を発掘する。マッチングをうまくする。
- ・こういった課題は継続的にカマコンに来てもらうと解決することが多い。人材も100名ほど登録されているし、毎回定例でも100人ほどは参加している。色んな行政からも視察に来てくれている。
- ・これらの課題はカマコンが出来る。
- ・代表がいないので組織だってやっってるわけではなく、自由にやっている。今のところはルールを決めなくてうまくできている。
- ・いつでも行けるのか。
- ・新規は非常に増えてるので、予約制になっている。メンバーになってもらえれば、自由に来てもらえる。会員になるには月額費用がかかる。
- ・カマコンが同じようなことができるけれど、他市ではNPO支援センターがやっていること。今NPOセンターは、その機能を果しているのだろうか。
- ・それは難しいと思う。そういうプロの人がいないから。
- ・鎌倉はNPO活動が盛んで、多いと聞いている。だから難しい部分があるのかも知れない。
- ・印刷機や場所を借りたり、事務機能として利用など、ハード面でNPOセンターを使っていることが多く、ソフト面で使うことはあまり聞いたことがない。
- ・社協でいうと、地域で活動している人は30年、50年に及ぶ。全国に先駆けてスタートしている。だから社協が引っ張ってもらっているのが現状。ただ社協も高齢化で困っていて、社協が人を貸して欲しいという要望があるくらい。

■ チーム1 発表

最初に原則。今回の条例は、協働の条例、市民活動条例というご意見が前回あったので、そこの仕分けをしっかりとしたい。市民活動をこれからどうしようかという方は、NPOセンターでファンド募集がある。

1件5万円くらいで何件か。初めの1歩をやる方にNPOセンターは向いている。

なのでそういう方はNPOセンターの相談窓口で充分相談に乗ってもらえる。

一方協働が必要な市民活動というのは、段階が違う市民活動なので、目的があり、これは本来行政がやるべき課題ではあるが、やはり市民がやった方が良いでしょう。

自分たちはこれだけ広い活動をしているのを総合して、そろそろ自分達もやってみようという団体は、行政の方で「協働のシステム」という冊子があるので、協働の申込制度を利用して、行政と話し合っ進めていくという方法がある。こういう2段階くらいのことを最初に押さえておくといいのではないかな。

次に出てきたのは、「場所が無い」ということ。

近隣の町内会館はあまりお金を出さなくても使えるという案があったり、もしかするともう少しあるのではないかとということがたくさん出た。

「人材」については、鎌倉には五万といるはずなのに、どうやって発掘してきたら良いだろうか。

「市長への手紙」が無くなって困る。

またそんなに上手には言えないし、学術的には言えないけれど、市民感覚として言えることを言ってもなかなか聞く耳を持ってもらえない。根拠を示せとか、データを示せとかでは市民活動は育たないのではないかと。

「アピールの方法」について、どうやってチラシや広告をやっていけば良いのか。

課題は出るけれど時間が無かったので課題だけ。

「行政に対する要望」について、出来る範囲で個人情報の提供が必要ではないか。

行政側が協力の意識が必要なのではないか。市民活動がせっかくここまで育ってきたのに、その継続ができるだけの資料を出してくれなくて、はい制度が変わりましたから終わり、という実感を持っている人もいる。

議員がこうおっしゃっていますから、議会がありますから、すぐに市民活動にそっぽを向いてしまう。

そういう行政の姿勢をどうにかして欲しい。それから毎年4月になると、担当が変わりましたと言われ去年の4月に提出した資料をまた全て説明しなければならない。それは行政の中で引き継いで欲しい。



【原則】

- ・市民活動ははじめの一步
- ・→NPOセンターが相談に乗る
- ・協働が必要な市民活動
- ・→行政と話し合う
- ・段階による違う対応

【場】

- ・市民同士が語り合う機会
- ・意見を出せる場(こうしたい)
- ・もっと使いやすいNPOセンター
- ・人と出会う場所
- ・飲みながら町づくりを語れる場！駅前ね
- ・気軽な語り場
- ・病院が出会いの場になったりして テレジアNPOセンター！？
- ・子どもも大人もたまり場がほしい
- ・活動の場所 文化財とのギャップ
- ・NPOセンターの活用
- ・町内会指定団体化
- ・近隣の町内会館使用検討

【人】

- ・ファシリテーターの育成
- ・新規会員の掘り出し
- ・埋蔵文化 人を掘り出せ！！
- ・人材 協働・活動に有効なバンク
- ・サイレントマジョリティを動かす手段、きっかけ

【時間】

- ・ゆっくり考える時間(長期で)

【アピール】

- ・成果の蓄積
- ・もっと活動のPR 広報、萌 以外
- ・イベント実施 チラシ 広告料
- ・チラシの広報の配り方
- ・ちゃんとやってる人の活動が表に出ない(出そうとしていない)

【行政の姿勢】

- ・募集方法 市の後援メニュー
- ・市と市民の温度差の解消
- ・市民のニーズの把握？
- ・できる範囲で個人情報の積極的提供

- ・行政は議会にふりまわされないで
- ・市民活動が継続できるため知恵を出して！
- ・行政側の協力(働)意義
- ・行政は引継ぎをしっかりと！

【心がけ】

- ・聴く耳をもつ
- ・市長への手紙がよかったのよね
- ・学術的根拠を求めない寛大さ、やさしさ
- ・→話を聴いてもらえてない(おざなりにされてる?)

■ チーム2 発表

課題、支援策、コメントと3つに分けて考えた。課題が出てきてそれに対する支援策というのを話合った。課題を大きく3つ。人、金、信用が重要なのではないかな。信用を得るために、お金の管理がきちんとしていることが大事である。お金の管理がきちんとしてきているかに関しては、大きくガバナンスとして表記していますが、組織として体を成しているかどうか。協働をすることが目的ではなくて、協働して何が大事なのか、その先にある活動が、誰のために、何のために活動しているのか、というところで手段が目的化しているのではないかな。

まだまだ NPO に対する捉え方が、足りない部分がある。

活動している側が NPO に対する説明ができていないか。NPO は非営利な活動をしているのでどうしてもお金を儲けてはいけないという認識がされている。

フルコストで予算計上されていることによって実は、ボランティアでやっていて、人件費は決算上は0円だけれども、最低賃金で計算したら実はこれだけのコストが掛かっているということも必要なのではないかな。

信用問題については、理念をきちんとしていくことが大事。評価の仕方が今はまだ定まっていない。

色々な評価の仕方があるけれど、NPO の評価は、売上高などでできることではないので、その評価の仕方をどうしたら良いのだろうか。

人については、知識を得られる場所が必要。そういう所をどんどん作ってほしい。

団体の中での問題としては、労務管理、IT スキルが必要。

鎌倉の NPO 支援センターの役割について、場所の提供、印刷機の提供については使いやすいかもしれないけれど、知識を得る機会はどうやってきているのか、疑問に感じているというコメントもあった。

情報提供サイトがあるといいのではないかな。いろんなことをマッチングする場だけではなくて、人、コーディネーターの養成など、どれくらい出来ているのだろうか。

NPO とか市民活動というのは、自主性、自発性が大事だけれども、行政が何かやってくれるだろうと待ってしまう方々も多いのではないかな。そういう意味で行政依存や行政の下請け化しているところもあるのではないかな。

市民活動の課題

支援策

コ×=ト

必要最小限の金

必要最小限の信用

クラウド
NPOの信用を高める
融資制度!!

信用の付くNPOに格付
理念の大事

議員の生の声
市民の方針を
反映させる

市民活動

専門知識不足

必要最小限の人材

ITスキルの不足

労務管理を
まらなく作り!

知識と経験
場の提供
(近所格付)

プロボ
(会計 経理 簿記 IT 翻訳)

楽(楽)の
仕組み

NPO支援
体制
強化

ガバナンス
声の主の
意見の反映

お金の管理
正確に
できているか?

継続性
(長期解決!!)

場所の情報
提供のための
路上T
不用品交換

NPO支援
センターの
役割機能
は何か?

学校や
自由な
制度

企業支援
の...

カゴコン
に一度いって
下こい。

スケジュール
の調整

相手(相手)に
合うように
調整を
できているか?

手段の
目的化
している

福祉教育
による
社会意識
の醸成

コーポ
の養成!!

団体同士
の
補完
プログラム!

コゴの
必要性
の再確認

報告を
よく
行う

全体像の
明確化

地域
の
連携

市民
の
参加

市民
の
参加

地域の
理解を
得る

資金
の
管理

NPOを
正しく
説明
できるか?

コスト
の
削減

行政の
下請け
化

リスク
管理

【市民活動の課題】

- ・必要最低限の金
- ・必要最低限の信用
- ・議員の生の声、考え方が市民に伝わっているか
- ・市職員の参画
- ・専門知識不足
- ・必要最低限の人材
- ・ITスキルの不足
- ・労務管理をきちんと行う！
- ・ガバナンス 声の大きい人の意見が全てではないですね
- ・お金の管理正確にできている！？
- ・継続性(短期解決して終わる場合もある)
- ・“場所”の情報サイトの立上げ 不用品交換コーナーのように
- ・NPO支援センターの役割・機能はまわってる？
- ・スケジュールの調整
- ・相手(本当に届けたい人)に合う、必要とする情報を発信できている！？
- ・手段が目的化している
- ・福祉教育 じいちゃん、母さん、子どもを通じて現地体験
- ・コーディネータの養成！？
- ・ヨコのつながりも大切に 同業者は仲が…
- ・報告、御礼をきちんと行う！
- ・全体像が明確でない 私たちは何をめざすの？
- ・地縁組織とどうつき合うか
- ・育てる事業
- ・お客様が多い(他人事)
- ・地域の理解を得る努力を！
- ・行政の下請け化(依存体質)
- ・リスク管理ができている！？
- ・議会对策に時間を取られていないか
- ・NPOを正確に説明できているか！？
- ・フルコストで予算計上していますか！？

【支援策】

- ・クラウドファンディング
- ・既存の制度の見直し NPOも対象にしてもよいのでは
- ・→新規立上げ事業 100万円支援→NPOの運転に変えた方がよい
- ・助成金の周知
- ・信用のおけるNPOに融資制度！！
- ・市民活動を評価すること 大切！！

- ・信用おけるNPOに格付
- ・理念が大事 市民団体等団結 自立 自分事 ネットワークの拡がり
- ・知識を得られる場の提供(低価格で)
- ・プロボノ(会計、経理、法律、IT、デザインなど)
- ・楽しく参加できるしくみ 例:横浜「ウォーキングポイント」
- ・柔軟な制度 自由度が高い制度
- ・企業支援はあるのに…
- ・団体同士がつながり、補完しあってプロジェクト！

【コメント】

- ・カマコンに一度いらして下さい

■ 発表まとめ

2つのチームが違った視点で見ている。NPO の組織としての活動をしっかりすることを考えるという話と、市民活動として市民を巻き込みながら活動するにはどうしたら良いかという話だが、両面とも大切な話。今回2つの系統の話が出来たと思う。両方考えなければいけないこと。先ほどの話でレベル差やランク差、成長したNPOとこれから始める方々と、どんな違いで巻き込んでいくのかということを考える手筈が色々出てきた。これを受けて次を考えていきたいと思う。